

氏 名 (本籍)	MOHD FAZLI MOHD SAM (マレーシア)
学 位 の 種 類	博士 (経営学)
学 位 記 番 号	甲第 79 号
学 位 授 与 の 日 付	平成 27 年 3 月 20 日
学 位 授 与 の 要 件	学位規則第 4 条第 1 項該当
学 位 論 文 題 目	PERFORMANCE OF INFORMATION AND COMMUNICATION TECHNOLOGY(ICT)COMPANIES IN ASEAN AND EAST ASIA
論 文 審 査 委 員	主査 愛知大学教授 星 野 靖 雄 副査 愛知大学教授 玉 置 光 司 副査 愛知大学教授 神 頭 広 好

ABSTRACT

Development of the ICT industry has become a major factor of economic growth. Previous ICT researchers have examined the importance of growth and performance in ICT development, ICT diffusion, ICT investment and ICT production. However, very few studies has been conducted to measure the performance of ICT industry using both questionnaires and financial ratios.

The first study investigates the Small Medium Enterprise (SME) practice of computerized accounting system (CAS) and identifies the factors affecting the adoption of CAS among SMEs in Melaka, Malaysia. The findings indicate that CEO innovativeness, perceived usefulness and business competitiveness are negatively correlated but only perceived ease of use shows statistical significance and positive correlation to CAS adoption. The second study explores the performance of 93 ICT companies by analyzing sales growth ratio and profitability ratios in the ICT industry among Japan and three ASEAN countries such as Malaysia, Thailand and Philippines using ORBIS of Bureau van Dijk (BvDEP) database. The result of this study reveals that Japan has better performance in sales growth rate compared to ASEAN countries, but lower profitability. The next study extends by adding China and South Korea to form six Asian countries. Using 255 ICT companies, China shows higher performance in the sales growth rate compared to other countries because of the rapid development in ICT sector. However, Malaysia and South Korea exhibit lower performance in several profitability ratios.

課程博士の学位授与申請書に係わる

本審査報告書

氏 名 Mohd Fazli Mohd Sam

論文題目 Performance of Information and Communication Technology (ICT)
Companies in ASEAN and East Asia

審査委員

主査 愛知大学教授

星野 靖雄



愛知大学教授

玉置 光司



愛知大学教授

神頭 広好



本学経営学研究科委員会の決定に基づき、Mohd Fazli Mohd Sam より提出された課程博士の学位申請論文により、2015年1月7日に本審査を行った。

【提出論文の審査について】

提出論文の概要

本論文は、ASEAN 諸国と東アジア諸国での情報と通信技術 (ICT) 企業の経営成果について研究である。

第1章の序論では研究の背景、研究目的、研究貢献、論文の構成、理論的バックグラウンド、技術の適用、ICT産業での技術の適用、マレーシアにおける中小企業、財務比率、データベースのORBISについて概説している。研究目的は第1に、マレーシアの中小企業でCEOの革新性がCAS (Computerized Accounting System)の採用に影響を与えているかどうか、有用性の認識、利用の容易さ、経営上の競争のCAS採用への効果を分析している。第2にICT産業における日本企業とASEAN3カ国 (マレーシア、タイ、フィリピン)の企業との成長性、収益性の分析である。第3に、日本、マレーシア、タイ、フィリピン

に中国と韓国を加えたアジア 6 カ国での ICT 産業における企業の成長性と収益性、安全性の分析である。

第 2 章は、Attewell (1992), Thong (1999), Lal (2007)等の先行研究を踏まえて、CEO の特性、組織の特徴、経営環境が CAS の導入に影響を与えているので、実証研究により確認している。データは、階層別質問表とパイロットスタディにより収集し、因子分析を適用し、クロンバックのアルファ係数により信頼性をチェックしている。その結果、CEO の新規性の新規制志向は CAS の採用に正の効果はもたらす、有用性の認識が導入に正の影響をもたらす、企業間競争が導入には負の効果をもたらすことが指摘できた。

第 3 章は、日本とマレーシア、タイ、フィリピンの ASEAN 3 カ国の ICT 産業の企業の売上高成長性と収益性の比較分析である。ORBIS データベースより日本企業 69 社、ASEAN 3 カ国 24 社の 2006 年より 2010 年までのデータを取得し、平均値の差の検定により成長率には統計的に有意な差はないが、収益性関連 4 指標では有意差があり、日本企業の方が収益性は劣っていることが指摘できた。

第 4 章は、第 3 章の 4 カ国にアジアの 2 カ国中国と韓国を加えたアジア 6 カ国における ICT 産業の上場・未上場企業 258 社の 2006 年より 2010 年の財務データを利用している。

分散分析、多重比較により、成長率では統計的に有意差があり、中国の成長率が圧倒的に高いことが判明している。収益性関連 4 指標では有意差があり、タイとフィリピンでの収益性が高いことも指摘された。

第 5 章は、結論と結果の意味合い、今後の研究方向を述べている。

【審査の結果】

本論文の口頭発表は 6 回の国際学会での発表であり、そのうちの 3 回は国内での国際学会での発表であり、国外では米国、オーストラリア、マレーシアでの国際学会である。

また、本学位論文の第 2 章は、既に、査読付き国際学術誌である International Journal of Business and Management Vol.7, No.18, pp.12-25, 2012 に掲載されており、第 3 章は、同様の査読付き学術誌 Interdisciplinary Journal of Contemporary Research in Business Vol. 4, No. 11, pp. 138-156, 2013 に掲載され、第 4 章は、査読付きの学術誌 International Journal of Business Administration, Vol.4 No.6, pp.96-11, 2013 に掲載されており高く評価できる。また、申請者は、他にも 6 編の査読付き学術誌に論文を掲載しており、それらは独立法人 科学技術振興機構のデータベースである researchmap でダウンロードできる。

以上より、審査委員会は本論文が愛知大学学位規程第 13 条第 1 項の規定により、博士(経営学)の学位授与に足る水準を十分満たしているものと審査委員一致して判断するものである。